下記を分析して

＃市民開発の実績

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| FY | 2023 | 2024 |
| 利用者 | 431人 | 420人 |
| 開発者 | 29人 | 36人 |
| 稼働中ロボ | 22体 | 40体 |
| 開発中ロボ | 22体 | 41体 |
| 削減時間 | 103.5時間 | 139.6時間 |
| 削減金額 | 65百万円 | 85百万円 |

### 1. \*\*全体的な傾向\*\*

- 市民開発の活動は \*\*2024年度も引き続き成長\*\* している。

- 利用者数は若干減少しているが、開発者数やロボットの数、削減時間・削減金額は増加しており、効率が向上していることがわかる。

### 2. \*\*各指標の変化\*\*

- \*\*利用者数\*\*: 431人 → 420人（\*\*-11人 / -2.6%\*\*）

- 若干の減少が見られるが、大幅な減少ではないため影響は限定的か。

- \*\*開発者数\*\*: 29人 → 36人（\*\*+7人 / +24.1%\*\*）

- 開発者が増えていることから、市民開発の裾野が広がっていると考えられる。

- \*\*稼働中ロボット数\*\*: 22体 → 40体（\*\*+18体 / +81.8%\*\*）

- \*\*開発中ロボット数\*\*: 22体 → 40体（\*\*+18体 / +81.8%\*\*）

- 稼働・開発中のロボットが大幅に増加しており、開発のペースが加速していることがわかる。

- \*\*削減時間\*\*: 103.5時間 → 139.6時間（\*\*+36.1時間 / +34.9%\*\*）

- \*\*削減金額\*\*: 65百万円 → 85百万円（\*\*+20百万円 / +30.8%\*\*）

- 時間・コスト削減効果も大幅に向上しており、市民開発の成果が出ている。

### 3. \*\*ポイント\*\*

- \*\*開発者が増加\*\* → 市民開発のスキルを持つ人が増え、活動が活発化。

- \*\*ロボットの数が倍増\*\* → 自動化の範囲が広がっている。

- \*\*削減時間・削減金額の増加\*\* → 効果が目に見えて向上しており、組織全体の効率化が進んでいる。

### 4. \*\*考察・今後の課題\*\*

- \*\*利用者数の減少をどう見るか？\*\*

- 現在の利用者がより効果的にロボットを活用できている可能性がある。

- ただし、新規ユーザーの獲得や継続利用の促進が課題となるかもしれない。

- \*\*開発者数の増加を維持するには？\*\*

- トレーニングやサポート体制を強化し、さらに開発者を増やすことで、持続的な成長が期待できる。

- \*\*ロボットの運用最適化\*\*

- 増加するロボットの管理・メンテナンスの負担をどう軽減するかが今後の課題となる。

全体として、2024年度は市民開発の \*\*成長と効率化が進んでいる\*\* ことが明らかであるが、利用者数の推移や運用負荷への対策など、今後の課題にも注目する必要がある。